

おおぞら

第24号

・発行
安来地区保護司会

・事務局
やすぎ更生保護サポートセンター
広瀬町広瀬 802
TEL (0854) 26-4181
題字 佐々木 實



雪どけと白鳥 (写真提供：今井昭紀)

平素は、犯罪や非行のない安全・安心な地域づくりのために、ご理解・ご協力賜り誠にありがとうございます。

さて、今なおコロナ禍ではありますところ、前任庁である那覇にて勤務していた3月、ほっこりする新聞記事を目にしました。それは、「善意の作業着でエール」心遣い、再起の力に」というタイトル。概要は、島根県内の高校生が、不要となった作業着を修繕した上で、刑務所等を出所し立ち直りに取り組む「更生保護施設しらふじ」の利用者に寄贈を続けているという内容でした。利用者の1人は「若者に背中を押され、しっかりしなければと思う」と語り、また、高校生の1人からは「活動でしらふじを知った。お役に立てるのならうれい」と語られていました。



『それぞれの立場において、まずは出来ることから』

松江保護観察所 所長 西江尚人

犯罪は身近な地域社会で発生し、その罪

を犯した人は、いずれ地域社会に戻ってきます。毎年広報活動を展開している「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪の防止と、あやまちを犯した人の立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。先に紹介した高校生のように、それぞれの立場において意識し行動していくことで、犯罪被害者等の心情を理解させつつ、再び地域に受け入れ、責任ある社会の一員となるよう支える礎となつていきます。

再犯防止における更生保護、とりわけ保護司や更生保護女性会員・協力雇用主等地域代表の方々の活動をご理解いただき、引き続き皆様のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



島根県で最も安全・安心な安来市を目指して

安来地区保護司会 会長 秋間近夫

安来市の保護司33名が担当する保護観察の件数が、ここ数年4〜7件で推移していました。県下9地区の中で隠岐と並び非常に少ない地区でしたが、本年度になり担当する対象者1名の状況で経過しています。平成10年代と比べると想像さえしなかった状況です。

このことは、数年前から安来市での矯正施設収容等の事件発生が減少していることを示しています。安来市における日々の生活の中で、市民生活を脅かす犯罪や不安が限

りなく少なくなることを保護司会と協力組織は願っています。

保護司は不幸にして罪を犯し、刑に服した人たちを社会に復帰させるため、保護司の心構え「相手の立場に立ち、愚直に辛抱強く、見離さない、見逃さない」の実践を心がけています。

「犯罪が起きない地域社会」、「二度と犯罪を起こさせない地域社会」と島根県で最も安全・安心な安来市実現に、市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

第71回 社会を明るくする運動

去る7月9日(金)、「第71回社会を明るくする運動」令和3年度「青少年の非行・被害防止全国強調月間」安来市推進大会」を安来市総合文化ホールアルテピアにて開催しました。

この大会は毎年7月が「社会を明るくする運動」強調月間と位置づけられることなどを踏まえて、犯罪や非行のないまちづくりを推進するために毎年この時期に開催しています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、メッセージ伝達式のみで開催でしたが、今年は規模を縮小しての大会開催となりました。当日は天候のすぐれない中でしたが、約30人の参加があり、大会実施委員長である安来市長の挨拶、そして秋間安来地区保護司会会長の挨拶に続き、内閣総理大臣のメッセージや県



知事・県警本部長・県教育長連名発信の青少年非行・被害防止メッセージを実施委員長が受信しました。さらに、前年の「社会を明るくする運動」作文コンテストにおける受賞作品である、大屋穂波さん(十神小学校卒業生)の「誰もが平等な社会へ」と、近藤志穂さん(赤屋小学校卒業生)の「犯罪や非行のない社会をつくるために」が朗読披露されました。



そして地域社会における課題について意識の共有を図り、大会宣言を採択して閉会しました。おわりになりましたが、大会開催に際して安来地区保護司会の皆様には大変お世話になりました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。(大会実施委員会事務局)



更生保護を支える ボランティア団体

◎ 更生保護女性会

女性としての立場から、地域社会の犯罪予防活動と犯罪を犯した人の改善更生に協力することを目的とするボランティア団体です。

◎ BBS会

様々な問題を抱える少年・少女と、兄弟のような身近な存在として接しながら、悩みを聞き相談にのり、健全育成に協力しています。

◎ 協力雇用主会

犯罪・非行の前歴のために定職に就くことが容易でない刑務所出所者等を、その事情を理解した上で雇用し、改善更生に協力する民間の事業主の方々です。

◎ 保護司

保護司は、犯罪を犯した人や非行に陥った人の立ち直りを地域社会の中で支えるボランティアです。

◎ 保護司の活動

- 犯罪や非行をした人の立ち直りを助けるための見守り、指導、相談支援
- 刑務所や少年院にいる人が帰ってくるための、住居・就労先などの生活環境の調整
- 地域住民や学校等における犯罪や非行を防止するための啓発活動
- 更生保護に対する地域の協力者の確保等





第71回社会を明るくする運動作文コンテストを小中学校に募集したところ、小学校5校24作品、中学校4校86作品の出品がありました。審査の結果、小学校の部で赤江小学校6年の桑原真知さん、中学校の部で安来市立第一中学校2年の野坂ちひろさんが安来地区保護司会会長賞に選ばれました。おめでとうございます。

小学生の部 優秀作品

安来地区保護司会会長賞

ゆうかいなどの被害にあわないために



安来市立赤江小学校6年 桑原 真知

私は、3年生の時、下校中に通学路で知らない女の人に、「お菓子をあげる。」と言われたことがあります。その人は、サングラスをかけて自転車で乗っていました。

私は、断ったら何かされるのではないかと思ひ、断ることができませんでした。サングラスをかけている人は、顔が見えないのでわかりませんでした。その時は、一緒に帰っていた友だちのおばあさんが学校に連絡してくださりほっとしました。サングラスをかけていたその人は、悪い人ではなかったかもしれませんが、しかし、私は、次に同じようなことがあったら、しっかり断って大人に知らせようと思ひました。

この出来事から、私は、二つのことを意識しようと思ひました。一つ目は「いかのおすし」です。「いかのおすし」とは、「いか・



行かない」「の・乗らない」「お・大声を出す」「す・すぐにげる」「し・知らせる」の合言葉です。これを覚えておけば、いざというときに役立ちます。私は、大人の方が近くにいないこともあるので、常に頭の中に入れておきたいと思ひました。

二つ目は、あいさつをすることです。どうしてあいさつが大事だと思つたかという、近所の人にあいさつをすると、私の顔を覚えてもらえるかもしれないし、私も近所の人の顔を覚えることができるかもしれないと思つたからです。もし、私がゆうかいされて家族が私を捜すようなことになつたときに、近所の人や「何時頃にここを通りましたよ」「あそこを通りましたよ」と教えてくださるかもしれません。

また、サングラスをかけていたあの女の人も、実は近所に住んでいた人だったかもしれません。私が近所にどんな人がいるか知って

いたら、気づけたかもしれないと思ひました。

近所の方たちは、下校中に私たちに積極的に関心をかけてくださいます。私は、家族だけではなく、地域の人も私たちを見守ってくださっているのだと思ひ、ありがたく感じています。

最初は、近所の人たちに声をかけられるのが恥ずかしくて、あいさつをされても、なかなか返すことができませんでした。それでもあいさつをしてくださる地域の方たちをすごく尊敬していました。今では、私も大きな声であいさつができるようになりました。

私も大きくなつたら、地域の子ども達に積極的にあいさつをして、ゆうかいなどの被害に遭わないように見守っていただける大人になりたいと思ひます。



中学生の部 優秀作品

安来地区保護司会会長賞

おもてなしの心



安来市立
第一中学校2年
野坂 ちひろ

「おもてなし」とは何だろうか。国語辞典で「おもてなし」を調べてみると、「お客様を大切に取扱うこと」と出てくる。

私は、小学校3年生の頃から茶道を習っている。もともと私の母が習っていたので、私も興味をもち、やってみようと思ったのが習い始めるきっかけだった。始めた頃は、作法などが難しく、抹茶を点てるだけでも一苦労だった。しかし、だんだん慣れていくうちに、気づいたことがあった。それは、茶道というのは全てが「おもてなし」だということだ。例えば、お客様に出すお菓子選び、茶わん選び、茶室に飾るお花、掛け軸の準備、部屋の掃除、道具の準備など、とてもたくさん準備を行う。これら全てが、いかにして、来られるお客様がその空間で気持ちよく過ごせるようにするか、と

考える、相手を思いやる心の表れだと思った。そのことに気づいてから私は、抹茶を点てる時だけでなく、準備の時もお客様に喜んでもらえるようにしようと考えようになった。お菓子を選ぶ時も、相手の方が目で見て楽しめるように考えながらするようにした。道具の準備もお客様が見て心が整うように思いつながらした。

そのように心がけていたある日、私が点てた抹茶を、「おいしい。癒やされるわ。」と、お客様が言ってくれたことが、私にとってとても嬉しい体験だった。おもてなしというのは、自分も相手も良い気分になれるものなのだと実感した。

また、ある本から学んだこともある。その本は、有川浩の書いた『県庁おもてなし課』だ。この本は、人から面白いと勧められて手に取った本だ。県庁の観光課で働く主人公が、おもてなしについて学んでいく話だが、その中で登場するのが、「おもてなしマインド」というものだ。おもてなしマインドとは、一人ひとりがおもてなしの心をもつということだ。本の中には、主人公が道に迷っていた時に地元の人が親切に道を教えてくれたことや、道の駅の人が商品などのポップを手書きで作っていたことなどのおもてなしの場面が

描かれていた。一人ひとりが親切な行動や相手を思った行動をすることにより、県外から来た観光客の方にも、人の温かさが伝わり、この土地は良い所だなと思ってもらえるようになる。主人公は気づいていた。私は、この本を読んで、おもてなしをするということとは、特に大きなことをしなさいといけないうわけではなく、小さな親切をすることも、おもてなしにつながるのだということが分かった。また、相手に喜んでもらうためには、日頃から一人ひとりがおもてなしマインドをもち、生活の中でも役立てることが大切だと気付いた。

家庭でお手伝いをする、困っている人がいたら助けること、あいさつをすることもおもてなしマインドだと思う。こう考えると、普段の生活の中でもおもてなしになることは、まだまだたくさんあると思う。

このおもてなしマインドを一人ひとりがもつことで、日本中、世界中もがちょっととした親切であふれ、より良い社会となっていくと思う。

私はいつでも心の中におもてなしマインドをもち、世の中を少しでも良くしていきたい。誰もがおもてなしマインドをもち、身近なことからできる「おもてなし」をする、そういう世の中を望んでいる。

退任にあたって

ふりかえって

楫野光範

令和3年5月31日で保護司を退任しました。あつという間の22年間でした保護観察の方々や、保護司の皆様にお世話になり無事に退任できたことを感謝申し上げます。

非行防止や罪を犯した人の立ち直りに本当に役立ったのかふり返ると、来訪の日時になかなか来なかつた少年、涙ながらに反省していた人のことなどを思い出しますが人を導くことの難しさを今なお、思うところです。

いつも心がけていたことは、来訪の時は、必ずお茶を出し、落ち着いてから話を聞くことと幸せな生活をするには「①悪いと思うことはしない。②よいことをする。③人のためになることをする。」ことだと自分にも言い聞かせながら接して来ました。人間は、欲があるから努力をしますが過ちもあるかもしれません。さらなる保護司活動の充実によって安全で安心な明るい社会が保たれるよう願っています。

保護司退任にあたり

仙田芳弘

保護司の話を頂いた頃は、まだ一般の事業所で勤務していた頃でしたので、その様な責任ある大役は出来ないとお断わりすることを考えておりました。と

更女だより

更女活動について

安来

安来地区更生保護女性会

会長 山崎光恵

私たちは、皆様からの愛の募金で、島根県下の更生保護施設十ヶ所へ図書券を贈り喜ばれています。

また地区では旧市内三ヶ所ある中学校へ交互に図書券を贈っています。

総会に合わせた研修会は、今年度は6月28日に行いました。

スクールカウンセラーやソーシャルワーカーとして活躍の繁浪啓子氏に、『今、子どもたちに育てておきたいこと』と題して講演してもらいました。多様な子どもたちがいる現代、彼らとの関わり方も難しいものとなりました。「人として大事にしてこられたこと」を聞き、私たちが今後人との関わりの中で参考になることが多く、有意義な研修会となりました。



募金活動

伯太

伯太地区更生保護女性会

会長 為国角

伯太地区の活動は主に、「愛の図書」の募金です。コロナ禍のこと心配しましたが、例年より少し少ない程度で、皆様のご協力、会員の尽力に頭が下がります。おかげ様で今年も中学校と四地区の小学校、こども園に図書費補助の名目で僅かずつですが届けることが出来、ほっとしています。ミニ集会も募金を持ち寄る程度で研修会も出来ておりません。コロナ禍が収束しましたら施設訪問もしたいと会員と話しています。

母里地区の見守りと、安田のこども園の窓掃除は続けています。

地域との繋がりを再び

広瀬

広瀬地区更生保護女性会

会長 岡崎憲枝

コロナ禍の中、活動の自粛を余儀なくされ更女の活動にも大きな影響を受けている。いつもと変わりなく活動が続けられたのは、愛の募金である。会員が感染を気にしながらも地域を回りご協力をいただいたお蔭で今年も変わることなく、各保育所、小・中学校へ持参することができた。

総会も研修会も開かれず紙面総会で済ませている。地域によっては、放課後児童クラブで本の読み聞かせなどの活動を実行しているところもある。

コロナが収束し、今までの平和な日常が戻れば又、活動を開始し、シトラスリボンのように地域との繋がりを深めていきたいと思う毎日だ。



放課後児童クラブでの本の読み聞かせ

ころがすでに、経営トップの方には内々に話しているからという事で、何も分からず不安を抱えたまま承諾することとなりました。それから後、ケース研修会等に出かけてみますと、私の中学校時代の担任の先生もおられ、声をかけて下さりこの先生方について行けばと、やっとやらせて頂くという気持ちになって来た様に思います。奥部山間地で、あまり人の出入りも多い方ではありませんが、それでも数件の方の担当を経験させていただきました。狭い山間地域でも、人と人とのつながりはいろいろありますので、他地域からの縁で引受人になられたり、友達関係から引受人になられたり、事情はまちまちでしたが、本人はもとより引受人となられる方をも知らない方だったりしたケースは、本当に不安なものがありました。それでも研修を重ねたり、主任官の指導を受けながら、少しずつ分かって来た様な気も致します。

一番困ったのは初めて担当した時に、往訪の約束をしてあるのに行ってみると「どこかへ用事で出かけた様だが」とおばあさんが言われ、これには参ってしまいました。その点引受人が家族で、本人も面識がある当事者は心やすさも有り、ポツリポツリと話してくれたりすると次第に胸の内も判る気がして来て、その案件の理解や当事者との関係で良好な結果につながって行くのだと感じました。幸い今も紹介した仕事先で頑張っていると聞き、安心感はもとより、保護司としての満足感も生まれた気がしております。

第21回「どじよっこカップ大会」

この大会は平成13年度から青少年の親善と健全育成を図る目的で安来地区保護司会が「社明運動」の一環として共催しています。

今年も昨年同様、コロナウイルスの影響で各競技とも実施するに当たって色々と苦慮されたようです。このような状況の中、安来市内を中心に近郊のチームの参加を得て、熱戦を展開しました。

野球大会

今年はコロナウイルスの影響で、参加チーム数が減りましたが、10月23、24日にあらえつさ球場を主会場に実施されました。その結果、優勝は赤江ファイターズと城北パイレーツ、準優勝は広瀬スタッグスと乃木ライオンズでカップとメダルが授与されました。



バレーボール大会

市内のチームのみの参加で、9月20日に開催されました。その結果、優勝は安来ホワイトウィングス、準優勝はJVひろせでした。



剣道大会

規模を縮小して11月14日に開催されました。

顕彰式典で表彰

11月19日に松江くまびきメッセで令和3年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典が開催され次の方々がおめでとうございます。

- 藍綬褒章
 - 仙田 芳弘
- 全国保護司連盟理事長表彰
 - 小村 修司
- 中国地方
 - 更生保護委員会委員長表彰
 - 藤井 裕子
 - 安達 紀雄
 - 中国地方
 - 保護司連盟会長表彰
 - 柏真 知子
- 松江保護観察所長表彰
 - 上田 宏充
- 島根県保護司会連合会
 - 会長表彰
 - 勝部 幸治
 - 宮廻 郁丸
 - 山崎 幸子

安来地区保護司会 役員名簿

(令和3年11月1日現在)

- 会長 秋間近夫(伯太)
- 副会長 矢田博美(安来)
- 常任理事 小池清水(広瀬)
- 理事 岩崎哲久(安来)
- 理事 岩崎美枝子(安来)
- 理事 原 玉子(伯太)
- 理事 池上幸秀(広瀬)
- 理事(事務局長) 小村修司(安来)
- 理事(事務局次長) 少林浩道(広瀬)

保護司の異動

退任保護司

令和3年5月31日

楫野 光 範 (安来)

新任保護司

令和3年6月1日付

楫野 光 伸 (安来)

理事(協会担当)

- 安部良江(広瀬)
- 倉本洋子(安来)
- 岩田京子(広瀬)

監事

岩田京子(広瀬)

部会名簿

(令和3年11月1日現在)

- 総務部会
 - 秋間 近夫
 - 矢田 博美
 - 原 玉子
 - 安部 良江
 - 小池 清水
 - 岩崎美枝子
 - 少林 浩道
 - 小村 修司
- 研修部会
 - 岩崎 哲久
 - 勝部 幸治
 - 山崎 幸子
 - 仙田 芳弘
 - 山崎 道弘
 - 永島 均
 - 葉田 茂美
 - 安達 紀雄
- 犯罪予防部会
 - 上田 宏充
 - 細田美佐子
 - 柏真知子
 - 楫野 光伸
 - 藤井 裕子
 - 今井 昭紀
 - 細田由紀子
 - 山崎 光恵
- 協力組織部会
 - 宮廻 郁丸
 - 原瀬 清正
 - 伊達山裕子
 - 倉本 洋子
 - 遠藤 史則
 - 佐瀬 宏洋
 - 岩田 京子
 - 池上 幸秀

編集後記

今年度から、更生保護活動について広く市民の皆さんに知っていただくために、保護司会の機関誌「おおぞら」を全戸配布いただけました。ご一読いただければ幸いです。